

# 平成 27 年 国 勢 調 査

## － 移動人口の男女・年齢等集計結果 －

平成 27 年国勢調査では、5 年前の常住地（5 年前に居住していた場所）の調査が行われ、移動人口の集計はその集計結果です。本来は、移動人口の集計は大規模調査（10 年ごとに実施）で行われますが、東日本大震災の影響を把握するため、従来大規模調査の年に調査していた「現在の住居における居住期間」及び「5 年前の住居の所在地」の集計を、今回の調査でも実施しています。

なお、5 歳未満の者についても、ふだん住んでいた場所を調査しています。

### 1. 人口移動状況

#### (1) 概況

#### 人口の 23.0%が 5 年前から住所を移動

平成 27 年国勢調査における神戸市人口（1,537,272 人）のうち、移動人口<sup>※</sup>は 317,346 人、人口に占める割合（移動率）は 23.0%<sup>※</sup>で、全国の移動率 21.9%<sup>※</sup>を上回っている。

※移動人口：5 年前に現住所以外の場所に住んでいた者の数。

神戸市：神戸市人口（1,537,272 人）から 5 年前の常住地が「不詳」の者（156,059 人）を除いて算出。

全国：総人口（127,094,745 人）から 5 年前の常住地が「不詳」の者（11,201,906 人）を除いて算出。

移動人口を 5 年前の常住地別にみると、「自区内」が 127,254 人（9.2%）と最も多く、「他県」75,649 人（5.5%）、「自市内他区」63,906 人（4.6%）、「県内他市町」43,269 人（3.1%）、「国外」7,268 人（0.5%）となっている。平成 22 年と比べると、神戸市の移動率は 1.1 ポイント縮小している。また、全国の移動率は 0.9 ポイント縮小している。

表 1 5 年前の常住地別人口（平成 22 年、27 年）

5 年前の常住地	神戸市						全国					
	平成 22 年		27 年		平成 22 年と 27 年との比較		平成 22 年		27 年		平成 22 年と 27 年との比較	
	人口	割合	人口	割合	数	ポイント	人口	割合	人口	割合	数	ポイント
総数 1)	1,403,198	100.0	1,381,213	100.0	△ 21,985	0.0	119,669,728	100.0	115,892,839	100.0	△ 3,776,889	0.0
現住所	1,066,034	76.0	1,063,867	77.0	△ 2,167	1.1	92,439,140	77.2	90,569,650	78.1	△ 1,869,490	0.9
現住所以外（移動人口）	337,164	24.0	317,346	23.0	△ 19,818	△ 1.1	27,230,588	22.8	25,323,189	21.9	△ 1,907,399	△ 0.9
自市内 2)	201,346	14.3	191,160	13.8	△ 10,186	△ 0.5	13,698,880	11.4	13,038,016	11.3	△ 660,864	△ 0.2
自区内 3)	130,160	9.3	127,254	9.2	△ 2,906	△ 0.1	11,952,673	10.0	11,425,427	9.9	△ 527,246	△ 0.1
自市内他区	71,186	5.1	63,906	4.6	△ 7,280	△ 0.4	1,746,207	1.5	1,612,589	1.4	△ 133,618	△ 0.1
市外からの転入	135,818	9.7	126,186	9.1	△ 9,632	△ 0.5	13,531,708	11.3	12,285,173	10.6	△ 1,246,535	△ 0.7
県内他市町から 4)	47,173	3.4	43,269	3.1	△ 3,904	△ 0.2	6,088,330	5.1	5,554,781	4.8	△ 533,549	△ 0.3
他県から	81,615	5.8	75,649	5.5	△ 5,966	△ 0.3	6,862,317	5.7	6,213,230	5.4	△ 649,087	△ 0.4
国外から	7,030	0.5	7,268	0.5	238	0.0	581,061	0.5	517,162	0.4	△ 63,899	△ 0.0

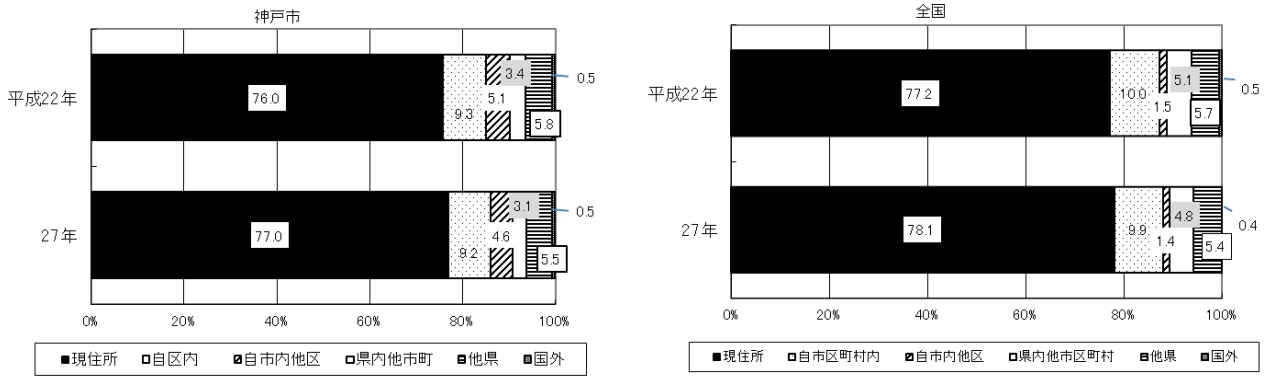
1) 5 年前の常住地「不詳」を除く。

2) 全国は自市区町村内と自市内他区の合計である。

3) 全国は自市区町村内である。

4) 全国は県内他市区町村からである。

図1 5年前の常住地別割合(平成22年, 27年)

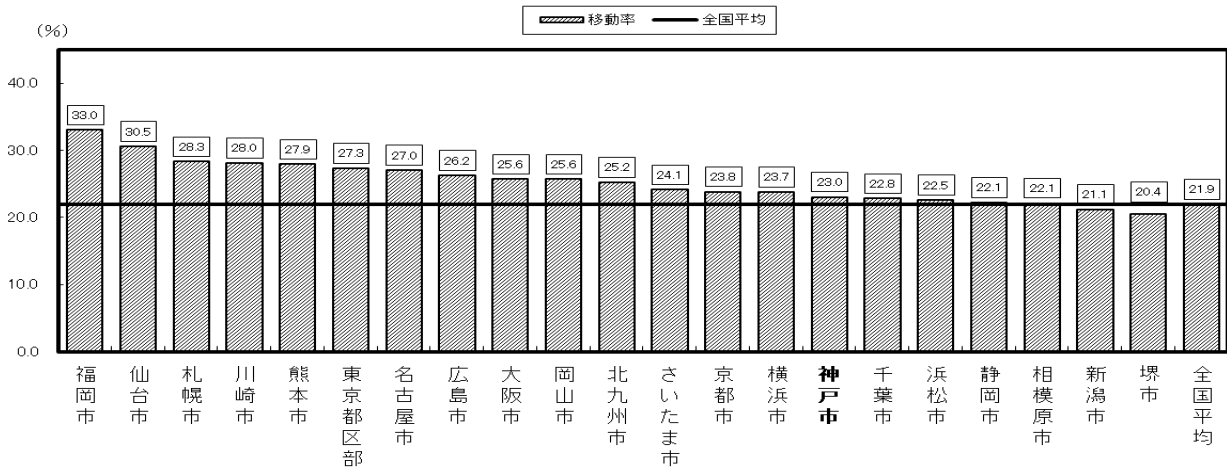


(2) 大都市比較

全国 21 大都市中 15 番目

全国の 21 大都市で移動率を比較すると、最も高いのは福岡市の 33.0%で、最も低いのは堺市の 20.4%となっている。神戸市の移動率 (23.0%) は 15 番目であった。堺市と新潟市を除く 19 大都市において、全国平均を上回っている。

図2 大都市の移動率(平成27年)



移動の内訳をみると、神戸市を含め、18 都市が移動人口の構成比の中で「自区内で移動」の占める割合が最も高い。一方、仙台市、さいたま市、川崎市は、「他県から転入」の割合が「自区内で移動」の割合を上回っている。

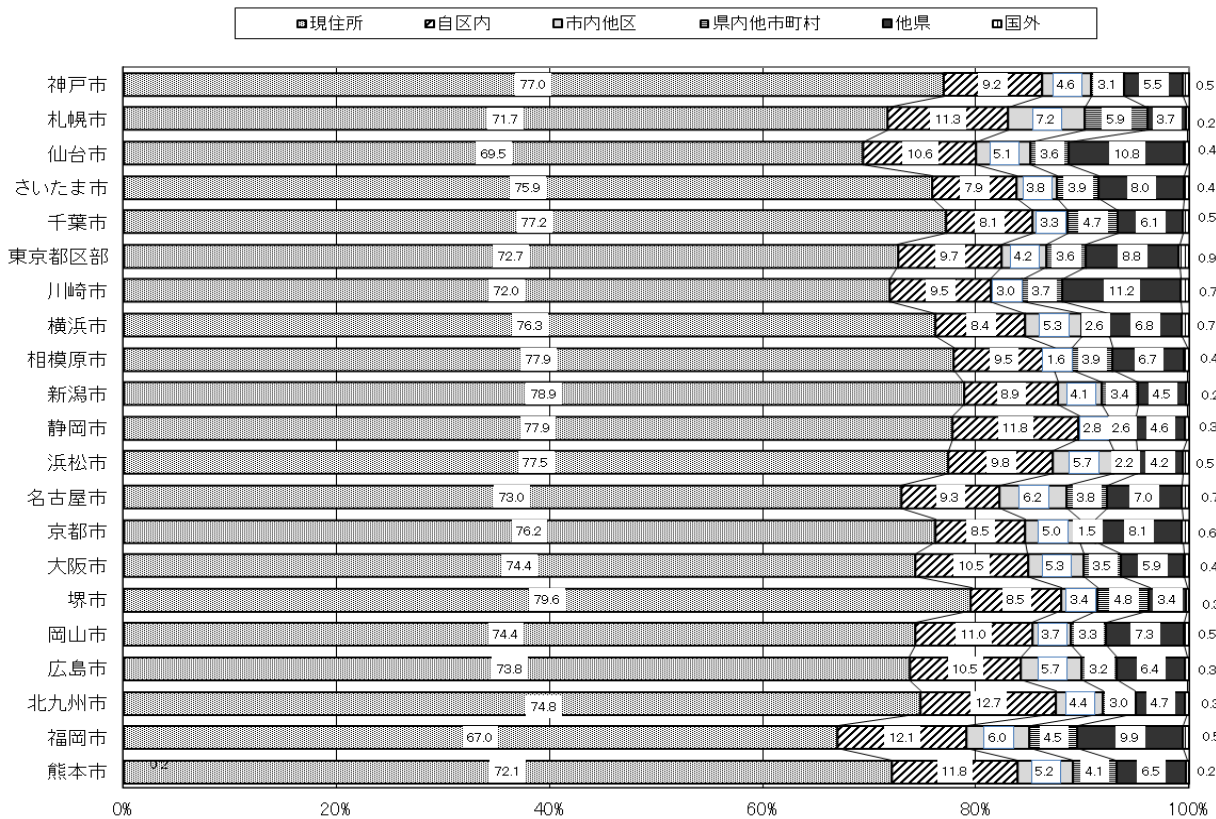
各都市の移動人口の構成比の傾向としては、「自区内で移動」が最も多くの割合を占め、次いで「他県から転入」、「市内他区から転入」、「県内他市町から転入」、「国外から転入」の順となるものが多く、神戸市を含め 13 都市が該当する。

表2 大都市の5年前の常住地別人口（平成27年）

都市	総数1)	現住所	現住所以外（移動人口）						
			総数	自市内で移動		県内他市町村から転入	他県から転入	国外から転入	
				総数	自区内で移動				市内他区から転入
神戸市	1,381,213	1,063,867	317,346	191,160	127,254	63,906	43,269	75,649	7,268
札幌市	1,668,744	1,197,256	471,488	308,868	188,819	120,049	98,000	61,174	3,446
仙台市	963,526	669,634	293,892	151,149	102,049	49,100	34,698	104,140	3,905
さいたま市	1,102,270	837,153	265,117	128,949	86,983	41,966	42,936	88,556	4,676
千葉市	866,603	669,321	197,282	99,296	70,406	28,890	40,299	53,217	4,470
東京都区部	10,369,471	7,540,747	2,828,724	1,448,272	1,010,578	437,694	377,857	907,824	94,771
川崎市	1,207,945	869,380	338,565	150,224	114,159	36,065	44,899	134,713	8,729
横浜市	3,228,987	2,463,485	765,502	441,557	271,762	169,795	82,728	220,191	21,026
相模原市	626,198	488,112	138,086	69,511	59,281	10,230	24,197	41,922	2,456
新潟市	775,550	612,009	163,541	100,784	68,886	31,898	26,261	34,998	1,498
静岡市	670,857	522,270	148,587	98,174	79,331	18,843	17,320	30,981	2,112
浜松市	770,139	596,732	173,407	119,172	75,547	43,625	17,292	32,726	4,217
名古屋市	2,028,655	1,481,480	547,175	314,641	188,027	126,614	77,661	141,210	13,663
京都市	1,234,631	941,356	293,275	166,533	104,440	62,093	18,764	100,579	7,399
大阪市	2,039,567	1,516,772	522,795	322,939	215,173	107,766	71,372	119,800	8,684
堺市	769,280	612,311	156,969	91,618	65,455	26,163	36,898	26,482	1,971
岡山市	668,537	497,190	171,347	97,712	73,237	24,475	21,966	48,521	3,148
広島市	1,111,341	820,395	290,946	179,886	116,534	63,352	35,964	71,593	3,503
北九州市	892,332	667,872	224,460	152,901	113,597	39,304	27,199	41,789	2,571
福岡市	1,261,335	845,526	415,809	227,991	152,516	75,475	56,287	124,786	6,745
熊本市	683,689	493,234	190,455	116,276	80,990	35,286	27,879	44,621	1,679

1) 5年前の常住地「不詳」を除く。

図3 大都市別 5年前の常住地別割合（平成27年）



### (3) 年齢別

#### 移動率は30～34歳がピーク

神戸市における年齢別の移動率は、30～34歳が53.2%と最も高く、次いで25～29歳が49.6%、35～39歳が40.0%となっている。一方、70～74歳が8.6%と最も低く、次いで65～69歳が9.4%、75～79歳が9.5%となっている。また「自市内」での移動を見ると、30～34歳が30.7%と最も高く、次いで35～39歳が24.5%、25～29歳が23.7%となっている。

全国でもほぼ同様の傾向だが、全国では、70～74歳が最も低く、次いで75～79歳、65～69歳となっている。

#### 転入率は20～24歳がピーク

神戸市における年齢別の移動率のうち、市外からの転入（転入率）についてみると20～24歳が26.7%と最も高く、次いで25～29歳が25.8%、30～34歳22.5%となっている。そのうち「県内他市町」からの転入をみると、30～34歳が9.0%と最も高く、次いで25～29歳が8.3%、35～39歳が6.2%となっている。また、「他県、国外」からの転入をみると、20～24歳が20.7%と最も高く、次いで25～29歳が17.6%、30～34歳が13.6%となっている。

全国でもほぼ同様の傾向だが、全国では、転入率は25～29歳が最も高く、次いで30～34歳、20～24歳の順になっている。

#### 転出率は25～29歳がピーク

5年前の常住地が神戸市だった人のうち、市外への転出（転出率）を年齢別にみると、25～29歳が27.8%と最も高く、次いで30～34歳が23.2%、20～24歳が19.6%となっている。そのうち「県内他市町」への転出をみると、30～34歳が9.9%と最も高く、次いで25～29歳が8.9%、35～39歳が6.2%となっている。また、「他県」への転出をみると、25～29歳が18.9%と最も高く、次いで20～24歳が15.5%、30～34歳が13.3%となっている。

全国でもほぼ同様の傾向だが、全国では、「他県」への転出については20～24歳が最も高く、次いで25～29歳、30～34歳の順になっている。

表3 神戸市 年齢(5歳階級)別, 5年前の常住地別割合(平成27年)

(単位: %)

年齢	現住所	現住所以外 (移動率)					転入 (再掲)	転出		
			うち 自市内	うち県内 他市町	うち 他県, 国外	うち 県内他市町			うち 他県	
総数	77.0	23.0	13.8	3.1	6.0	9.1	8.3	3.0	5.2	
0~4歳	75.0	25.0	16.8	3.3	4.9	8.2	8.3	3.8	4.4	
5~9歳	65.5	34.5	23.0	4.1	7.4	11.5	9.7	4.1	5.6	
10~14歳	80.7	19.3	13.3	1.6	4.5	6.0	4.4	1.4	2.9	
15~19歳	77.7	22.3	11.0	2.8	8.5	11.3	6.8	1.8	5.0	
20~24歳	60.9	39.1	12.4	6.0	20.7	26.7	19.6	4.1	15.5	
25~29歳	50.4	49.6	23.7	8.3	17.6	25.8	27.8	8.9	18.9	
30~34歳	46.8	53.2	30.7	9.0	13.6	22.5	23.2	9.9	13.3	
35~39歳	60.0	40.0	24.5	6.2	9.4	15.5	14.8	6.2	8.6	
40~44歳	73.6	26.4	16.7	3.4	6.4	9.7	8.9	3.3	5.5	
45~49歳	80.4	19.6	12.3	2.4	4.9	7.3	6.4	2.1	4.3	
50~54歳	84.5	15.5	9.9	1.8	3.7	5.5	5.3	1.7	3.6	
55~59歳	87.0	13.0	8.6	1.5	2.8	4.4	4.5	1.6	2.9	
60~64歳	88.6	11.4	7.9	1.3	2.1	3.4	3.4	1.3	2.1	
65~69歳	90.6	9.4	6.8	1.1	1.5	2.6	2.4	1.1	1.3	
70~74歳	91.4	8.6	6.5	1.0	1.1	2.1	1.8	0.9	0.9	
75~79歳	90.5	9.5	7.2	1.1	1.2	2.3	1.9	1.0	0.9	
80~84歳	87.6	12.4	9.4	1.5	1.5	3.0	2.6	1.3	1.3	
85歳以上	77.0	23.0	18.1	2.7	2.2	5.0	4.1	2.1	1.9	

5年前の常住地「不詳」を除いて算出。

表4 全国 年齢別(5歳階級)別, 5年前の常住地別割合(平成27年)

(単位: %)

年齢	現住所	現住所以外 (移動率)					転入 (再掲)	転出		
			うち 自市内1)	うち県内 他市町2)	うち 他県, 国外	うち 県内他市町 2)			うち 他県	
総数	78.1	21.9	11.3	4.8	5.8	10.6	10.2	4.8	5.4	
0~4歳	74.1	25.9	15.0	5.7	5.2	10.9	10.5	5.7	4.9	
5~9歳	64.5	35.5	21.6	6.9	7.0	13.9	13.5	7.0	6.5	
10~14歳	80.8	19.2	12.5	2.8	3.9	6.7	6.3	2.8	3.5	
15~19歳	79.4	20.6	9.3	4.2	7.1	11.3	10.8	4.2	6.6	
20~24歳	63.3	36.7	9.9	8.4	18.4	26.7	25.3	8.5	16.8	
25~29歳	51.1	48.9	18.3	13.0	17.6	30.6	29.3	13.2	16.1	
30~34歳	48.7	51.3	23.9	13.5	13.9	27.4	26.6	13.6	13.0	
35~39歳	60.8	39.2	20.3	9.2	9.6	18.9	18.3	9.3	9.0	
40~44歳	74.0	26.0	14.1	5.4	6.6	12.0	11.5	5.4	6.1	
45~49歳	81.6	18.4	9.9	3.5	5.0	8.5	8.2	3.6	4.6	
50~54歳	85.8	14.2	7.4	2.9	3.9	6.7	6.5	2.9	3.6	
55~59歳	88.5	11.5	6.2	2.4	2.9	5.4	5.2	2.4	2.8	
60~64歳	90.3	9.7	5.5	2.0	2.2	4.1	4.1	2.0	2.1	
65~69歳	92.1	7.9	4.9	1.5	1.5	3.1	3.0	1.5	1.5	
70~74歳	93.0	7.0	4.6	1.3	1.1	2.4	2.4	1.3	1.1	
75~79歳	92.5	7.5	5.1	1.5	1.0	2.4	2.4	1.5	1.0	
80~84歳	89.4	10.6	7.3	2.1	1.2	3.3	3.3	2.1	1.2	
85歳以上	78.7	21.3	15.6	3.9	1.8	5.7	5.7	3.9	1.8	

1)自市区町村内と自市内他区の合計である。

2)自市区町村内である。

5年前の常住地「不詳」を除いて算出。

図4 年齢(5歳階級)別移動率(平成27年)

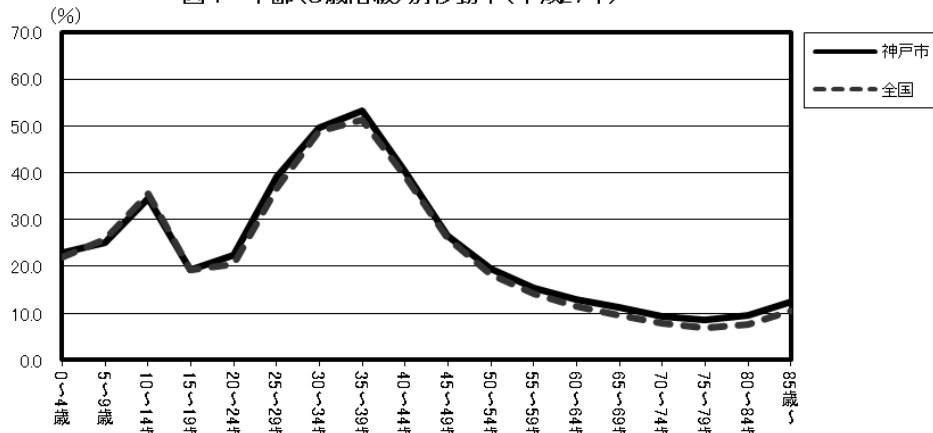


図5 年齢(5歳階級)別転入率(平成27年)

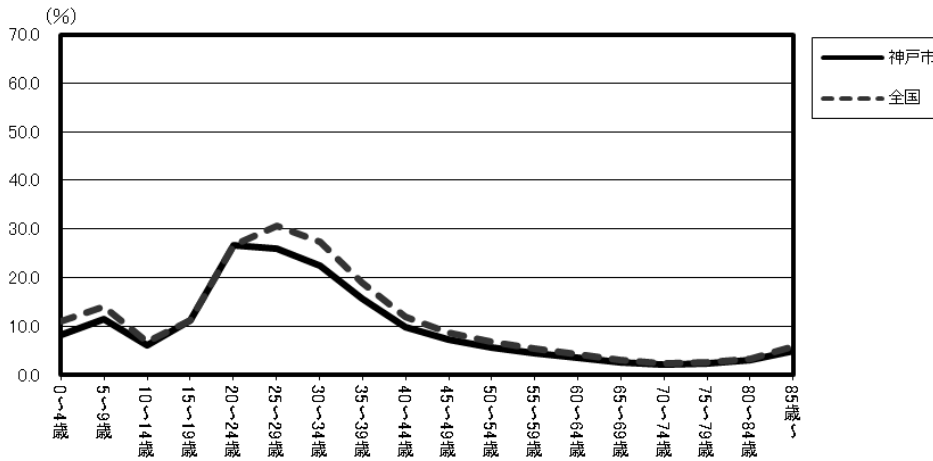
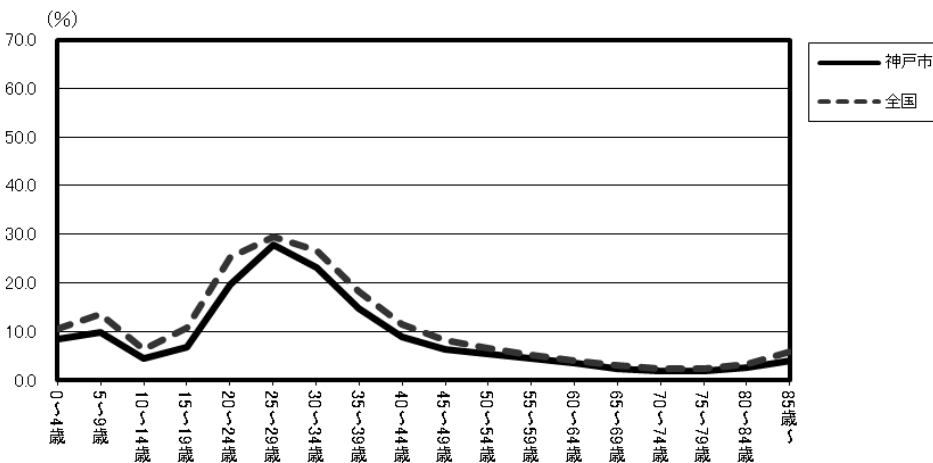


図6 年齢(5歳階級)別転出率(平成27年)



#### (4) 男女別

##### 移動率は男性、女性ともに30～34歳がピーク

神戸市における移動率を男女別にみると、男性は30～34歳が53.0%と最も高く、次いで25～29歳が49.2%、35～39歳が41.0%となっている。女性もほぼ同様の傾向にあり、30～34歳が53.5%と最も高く、次いで25～29歳が49.9%、20～24歳が40.1%となっている。

##### 転入率は男性25～29歳、女性20～24歳がピーク

男女別に転入率をみると、男性は25～29歳が27.0%と最も高く、次いで20～24歳が26.6%、30～34歳の22.6%となっている。一方、女性は20～24歳が26.8%と最も高く、次いで25～29歳が24.8%、30～34歳が22.5%となっている。

##### 転出率は男性、女性ともに25～29歳がピーク

男女別に転出率をみると、男性は25～29歳が29.2%と最も高く、次いで20～24歳が22.9%、30～34歳が22.6%となっている。一方、女性もほぼ同様の傾向にあり、25～29歳が26.5%と最も高く、次いで30～34歳が23.7%、20～24歳が16.4%となっている。

表5 男女別、5年前の常住地割合(平成27年)

(単位：%)

年 齢	移動率		転入率(再掲)		転出率	
	男	女	男	女	男	女
総 数	23.3	22.7	9.7	8.7	9.1	7.5
0～4歳	25.0	25.0	8.3	8.1	8.4	8.2
5～9歳	34.3	34.7	11.4	11.5	9.9	9.6
10～14歳	19.2	19.5	6.0	6.1	4.3	4.4
15～19歳	22.1	22.5	10.8	11.7	8.2	5.3
20～24歳	38.0	40.1	26.6	26.8	22.9	16.4
25～29歳	49.2	49.9	27.0	24.8	29.2	26.5
30～34歳	53.0	53.5	22.6	22.5	22.6	23.7
35～39歳	41.0	39.2	16.1	15.1	15.2	14.5
40～44歳	27.4	25.6	10.7	8.9	9.9	7.9
45～49歳	20.8	18.5	8.6	6.2	8.1	4.9
50～54歳	16.8	14.3	6.8	4.4	7.0	3.8
55～59歳	14.2	11.9	5.4	3.5	5.8	3.3
60～64歳	12.6	10.2	4.0	2.9	4.2	2.7
65～69歳	9.9	8.9	2.8	2.4	2.8	2.0
70～74歳	8.3	8.8	2.0	2.2	1.9	1.8
75～79歳	8.5	10.2	2.1	2.5	1.6	2.0
80～84歳	9.9	14.0	2.4	3.4	2.0	2.9
85歳以上	16.8	25.6	4.0	5.4	3.3	4.4

5年前の常住地「不詳」を除いて算出。

図7 男女別移動率(平成27年)

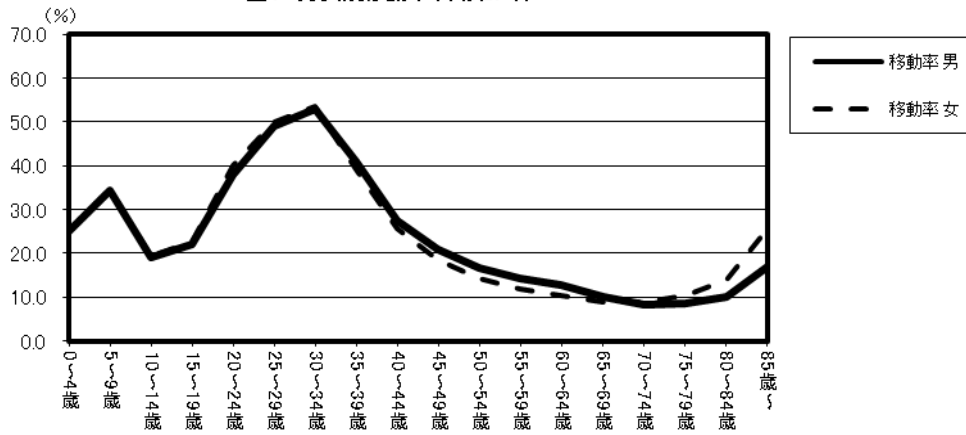


図8 男女別転入率(平成27年)

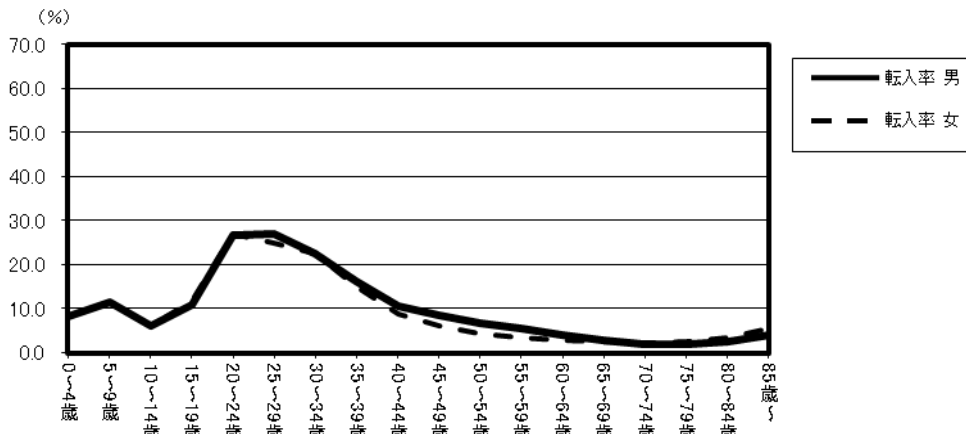
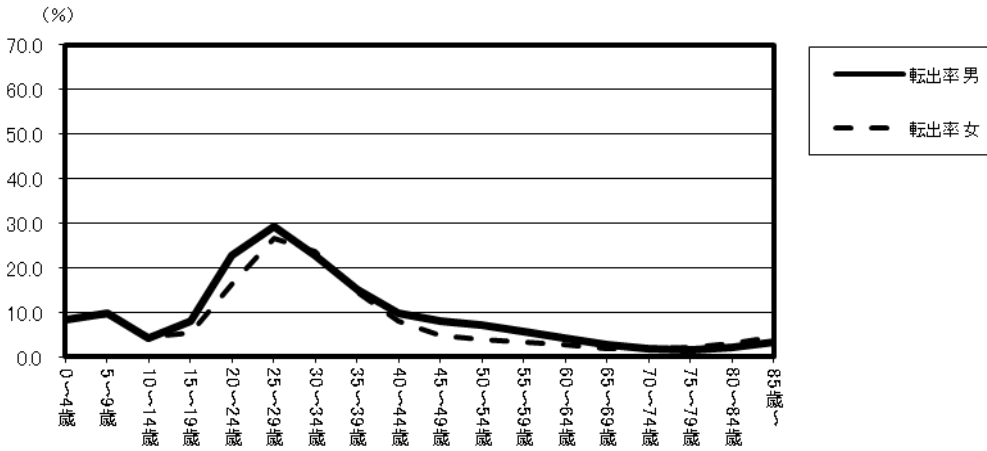


図9 男女別転出率(平成27年)





## 2. 相手地域別転出入状況

### (1) 転入

#### 東日本からの割合が最も大きい

移動人口のうち、市外からの転入は 126,186 人であった。5年前の常住地別にその内訳をみると、東日本 27,687 人（市外からの転入者全体に占める割合 21.9%）の方が、西日本 21,640 人（同 17.1%）よりも多く、そのうち、東京圏 15,402 人（同 12.2%）、中国 9,116 人（同 7.2%）が高い割合を占めている。また、近隣地をみると、大阪府 17,013 人（同 13.5%）、阪神間6市 15,615 人（同 12.4%）が多くなっている。

表6 相手地域別 転入状況(平成27年)

5年前の常住地		実数	割合
			(%)
総	数	126,186	100.0
近	畿	69,591	55.1
近	隣地	33,330	26.4
	阪神間6市 <sup>a)</sup>	15,615	12.4
	うち西宮市	6,700	5.3
	東播臨海部 <sup>b)</sup>	13,162	10.4
	うち明石市	8,627	6.8
	三木, 小野, 三田	4,553	3.6
	兵庫県下(近隣地以外) <sup>c)</sup>	9,939	7.9
	大阪府	17,013	13.5
	うち大阪市	6,324	5.0
	その他近畿	9,309	7.4
	東日本	27,687	21.9
	北海道, 東北	2,389	1.9
	関東	16,673	13.2
	うち東京圏 <sup>d)</sup>	15,402	12.2
	中部	8,625	6.8
	西日本	21,640	17.1
	中国	9,116	7.2
	四国	5,811	4.6
	九州	6,713	5.3
	国外	7,268	5.8

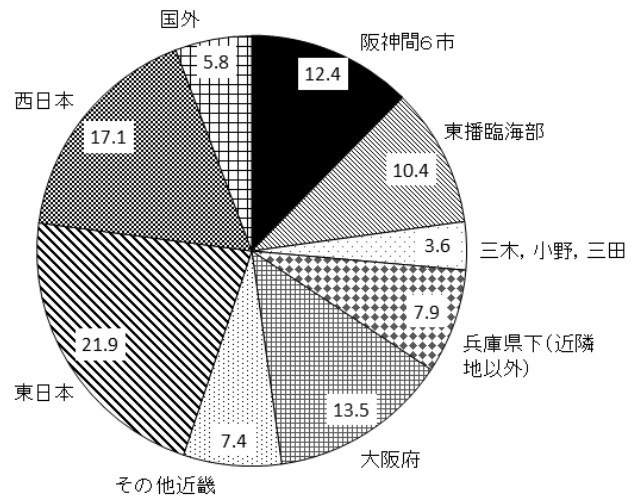
a) 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市

b) 明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町

c) 5年前の常住地「不詳」で、兵庫県に現住しているものを含む。

d) 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県

図10 相手地域別転入割合(平成27年)



## 年齢別

市外からの転入率が高い地域を年齢別にみると、30～34歳、25～29歳の大阪府からの転入が2.4%、2.1%、ならびに20～24歳の中国地方からの転入が2.1%となっている。ほとんどの地域において、転入率が最も高いのは20～34歳の間のいずれかとなっているが、東京圏からの転入率は25～44歳で高い割合を維持している。

表7 年齢(5歳階級)別、相手地域別転入状況(平成27年)

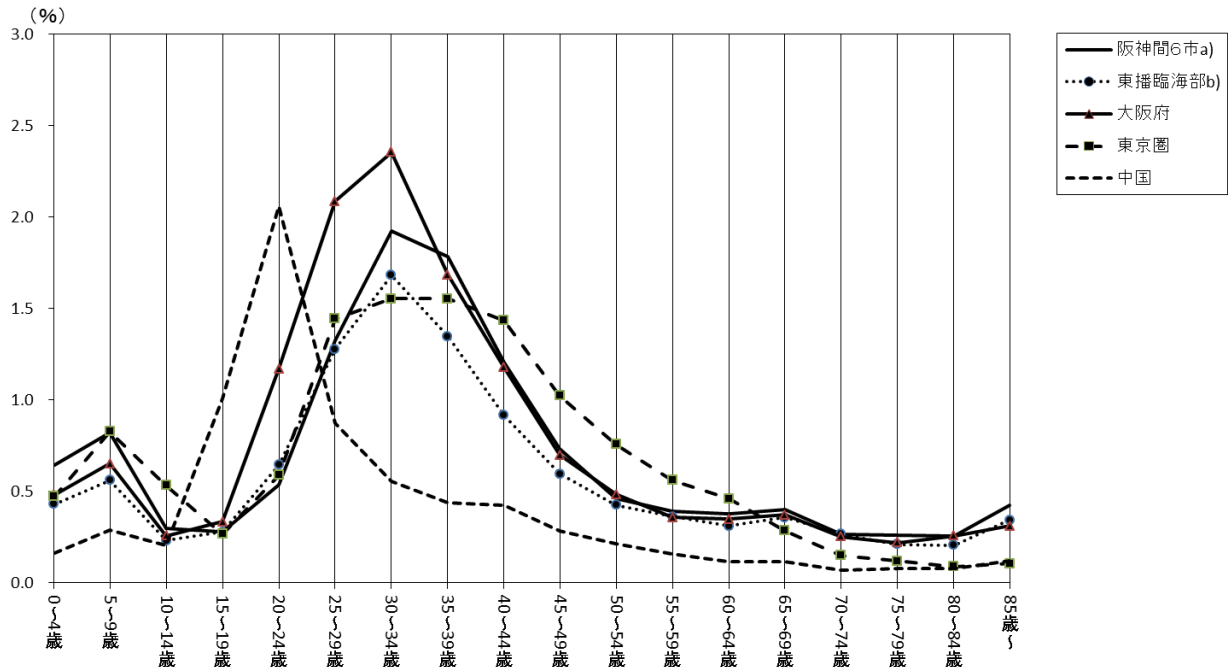
(単位：%)

5年前の常住地	総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
阪神間6市a)	12.4	0.6	0.8	0.3	0.3	0.5	1.3	1.9	1.8	1.2	0.7	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
東播臨海部b)	10.4	0.4	0.6	0.2	0.3	0.6	1.3	1.7	1.3	0.9	0.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3
大阪府	13.5	0.5	0.7	0.3	0.3	1.2	2.1	2.4	1.7	1.2	0.7	0.5	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2	0.3	0.3
東京圏	12.2	0.5	0.8	0.5	0.3	0.6	1.4	1.6	1.6	1.4	1.0	0.8	0.6	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1
中国	7.2	0.2	0.3	0.2	1.0	2.1	0.9	0.6	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

a) 尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市

b) 明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

図11 年齢(5歳階級)、相手地域別転入状況(平成27年)



## (2) 転出

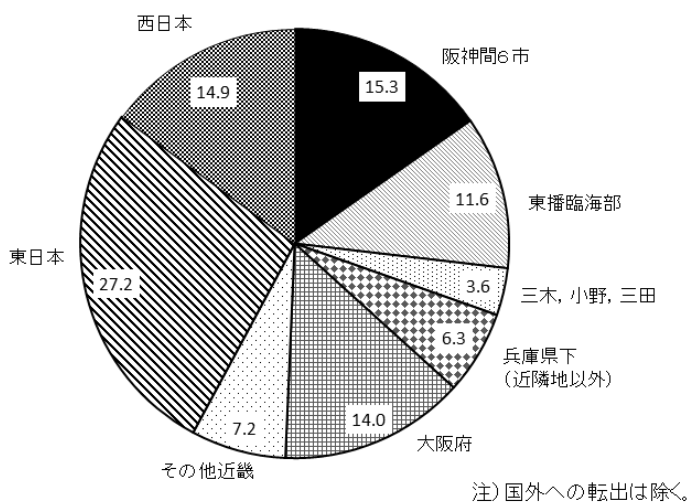
### 東日本への割合が最も大きい

5年前の常住地が神戸市だった人のうち、市外への転出は112,930人であった。転出者を平成27年10月1日の現住所別にその内訳をみると、東日本30,731人(市外への転出者全体に占める割合27.2%)の方が、西日本16,861人(同14.9%)よりも多く、そのうち東京圏19,001人(同16.8%)、中国7,247人(同6.4%)が高い割合を占めている。また、近隣地をみると、阪神間6市17,261人(同15.3%)、大阪府15,794人(同14.0%)が多くなっている。

表8 相手地域別 転出状況(平成27年)

5年前の常住地		実数	割合
			(%)
総	数	112,930	100.0
近	畿	65,338	57.9
近	隣地	34,330	30.4
	阪神間6市 <sup>a)</sup>	17,261	15.3
	うち西宮市	7,467	6.6
	東播臨海部 <sup>b)</sup>	13,045	11.6
	うち明石市	9,064	8.0
	三木, 小野, 三田	4,024	3.6
	兵庫県下(近隣地以外) <sup>c)</sup>	7,125	6.3
	大阪府	15,794	14.0
	うち大阪市	6,346	5.6
	その他近畿	8,089	7.2
東	日本	30,731	27.2
北	海道, 東北	2,370	2.1
関	東	20,157	17.8
	うち東京圏 <sup>d)</sup>	19,001	16.8
	中部	8,204	7.3
西	日本	16,861	14.9
	中国	7,247	6.4
	四国	3,834	3.4
	九州	5,780	5.1
国	外	-	-

図12 転出者の相手地域別割合(平成27年)



a) 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市

b) 明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町

c) 5年前の常住地「不詳」で、兵庫県に現住しているものを含む。

d) 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県

## 年齢別

市外への転出率が高い地域を年齢別にみると、25～29歳の東京圏への転出が2.9%、25～29歳の大阪府への転出が2.8%、30～34歳の阪神間6市への転出が2.7%となっている。ほとんどの地域において転出率が最も高いのは25～34歳までのいずれかとなっている。

表9 年齢(5歳階級)別、相手地域別転出状況(平成27年)

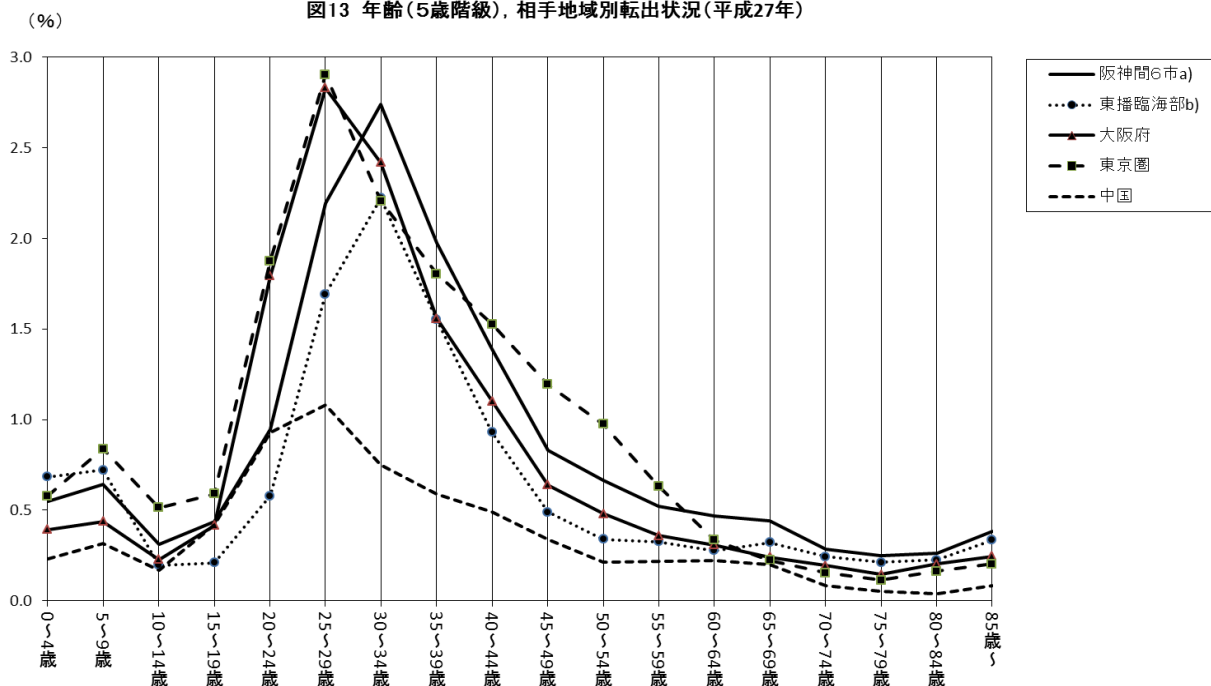
(単位: %)

5年前の常住地	総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
阪神間6市a)	15.3	0.5	0.6	0.3	0.4	0.9	2.2	2.7	2.0	1.4	0.8	0.7	0.5	0.5	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4
東播臨海部b)	11.6	0.7	0.7	0.2	0.2	0.6	1.7	2.2	1.6	0.9	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3
大阪府	14.0	0.4	0.4	0.2	0.4	1.8	2.8	2.4	1.6	1.1	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2
東京圏	16.8	0.6	0.8	0.5	0.6	1.9	2.9	2.2	1.8	1.5	1.2	1.0	0.6	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2
中国	6.4	0.2	0.3	0.2	0.4	0.9	1.1	0.8	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1

a) 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市

b) 明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町

図13 年齢(5歳階級)、相手地域別転出状況(平成27年)



### 3. 区別の転出入状況

#### (1) 市外からの転入状況

#### 東灘区が最も多い

市外からの転入状況を区別にみると、東灘区の25,442人が最も多く、西区、中央区、垂水区と続いている。最も少ないのは、長田区の4,878人であった。

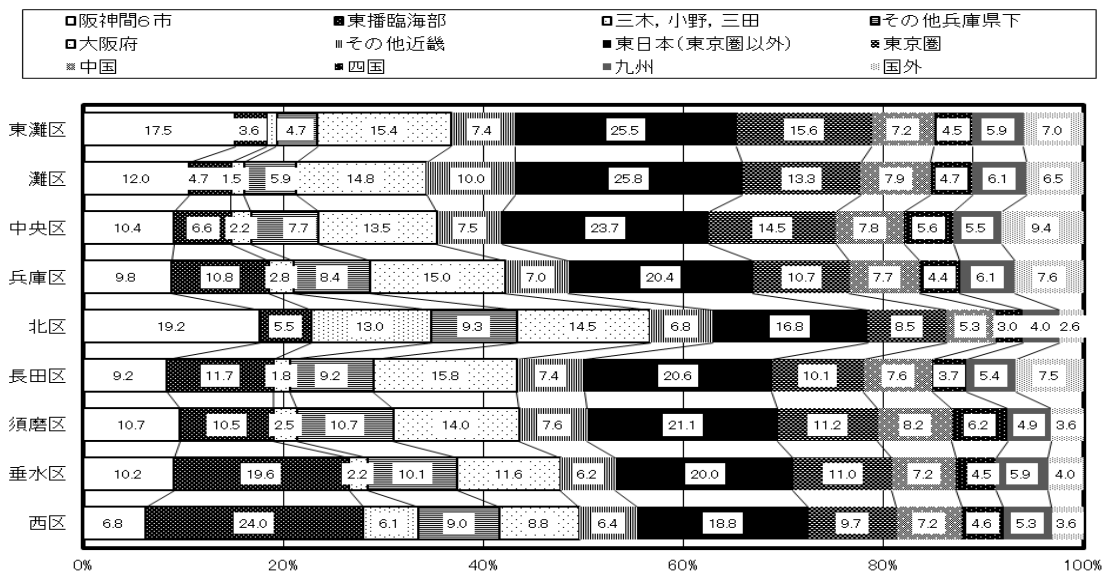
区別に最も高い割合を占める相手地域をみると、東灘区・北区では阪神間6市、灘区・兵庫区・長田区・須磨区では大阪府、中央区では東京圏、垂水区・西区では東播臨海部となっている。

表10 区別 相手地域別 転入状況(平成27年)

5年前の常住地		東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
総数		25,442	15,254	16,655	7,891	13,095	4,878	9,836	15,923	17,212
近隣地域		12,704	7,463	7,984	4,236	8,937	2,691	5,516	9,530	10,530
近隣地域		5,689	2,775	3,198	1,841	4,937	1,109	2,335	5,088	6,358
阪神間6市a)		4,457	1,836	1,734	772	2,509	450	1,056	1,625	1,176
うち西宮市		1,833	793	800	314	1,168	166	518	658	450
東播臨海部b)		924	715	1,098	849	725	572	1,029	3,120	4,130
うち明石市		539	410	619	448	411	346	653	2,163	3,038
三木, 小野, 三田		308	224	366	220	1,703	87	250	343	1,052
兵庫県下(近隣地以外)c)		1,205	900	1,285	666	1,219	449	1,054	1,606	1,555
大阪府		3,925	2,262	2,252	1,180	1,895	771	1,375	1,841	1,512
その他近畿		1,885	1,526	1,249	549	886	362	752	995	1,105
東日本		10,471	5,973	6,362	2,458	3,312	1,497	3,173	4,934	4,909
北海道, 東北		455	322	330	194	215	105	202	288	278
関東		4,199	2,193	2,601	919	1,249	531	1,177	1,913	1,891
うち東京圏d)		3,972	2,034	2,416	846	1,111	493	1,100	1,757	1,673
中部		1,845	1,424	1,015	499	737	368	694	976	1,067
西日本		4,456	2,861	3,155	1,440	1,611	817	1,891	2,575	2,834
中国		1,830	1,207	1,293	609	699	371	804	1,069	1,234
四国		1,135	720	940	351	392	181	606	657	829
九州		1,491	934	922	480	520	265	481	849	771
国外		1,783	991	1,570	603	346	366	356	641	612

- a) 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市
- b) 明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町
- c) 5年前の常住地「不詳」で、兵庫県に現住しているものを含む。
- d) 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県

図14 区別 転入者の相手地域別割合(平成27年)



## (2) 市外への転出状況

### 東灘区が最も多い

市外への転出状況をみると、東灘区の21,248人が最も多く、西区、北区、垂水区と続いている。最も少ないのは、長田区の4,878人であった。

区別に最も高い割合を占める相手地域をみると、東灘区・北区では阪神間6市、灘区・中央区・須磨区では東京圏、兵庫区・長田区では大阪府、垂水区・西区では東播臨海部となっている。

表11 区別 相手地域別 転出状況(平成27年)

5年前の常住地	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
総 数	21,248	11,684	11,959	6,341	14,433	4,878	9,823	14,226	18,338
近 畿	11,349	5,872	6,334	3,637	9,092	2,997	5,738	8,728	11,591
近 隣 地	6,044	2,637	2,890	1,755	4,707	1,594	2,835	4,987	6,881
阪 神 間 6 市 <sup>a)</sup>	4,920	1,836	1,807	795	2,498	638	1,379	1,684	1,704
うち西宮市	2,065	764	764	339	1,141	290	613	721	770
東播臨海部 <sup>b)</sup>	841	633	874	762	901	609	1,188	2,990	4,247
うち明石市	548	416	557	492	579	400	788	2,101	3,183
三木, 小野, 三田	283	168	209	198	1,308	347	268	313	930
兵庫県下(近隣地以外) <sup>c)</sup>	820	553	724	454	1,063	388	734	1,057	1,332
大 阪 府	3,009	1,765	1,848	990	2,150	676	1,432	1,755	2,169
そ の 他 近 畿	1,476	917	872	438	1,172	339	737	929	1,209
東 日 本	6,874	3,943	3,598	1,666	3,280	1,156	2,535	3,502	4,177
北 海 道, 東 北	453	260	296	151	286	103	190	297	334
関 東	4,897	2,664	2,418	1,010	2,033	717	1,614	2,185	2,619
うち東京圏 <sup>d)</sup>	4,680	2,543	2,279	947	1,886	665	1,497	2,066	2,438
中 部	1,524	1,019	884	505	961	336	731	1,020	1,224
西 日 本	3,025	1,869	2,027	1,038	2,061	725	1,550	1,996	2,570
中 国	1,264	817	852	434	881	270	660	841	1,228
四 国	645	407	468	238	438	164	406	480	588
九 州	1,116	645	707	366	742	291	484	675	754

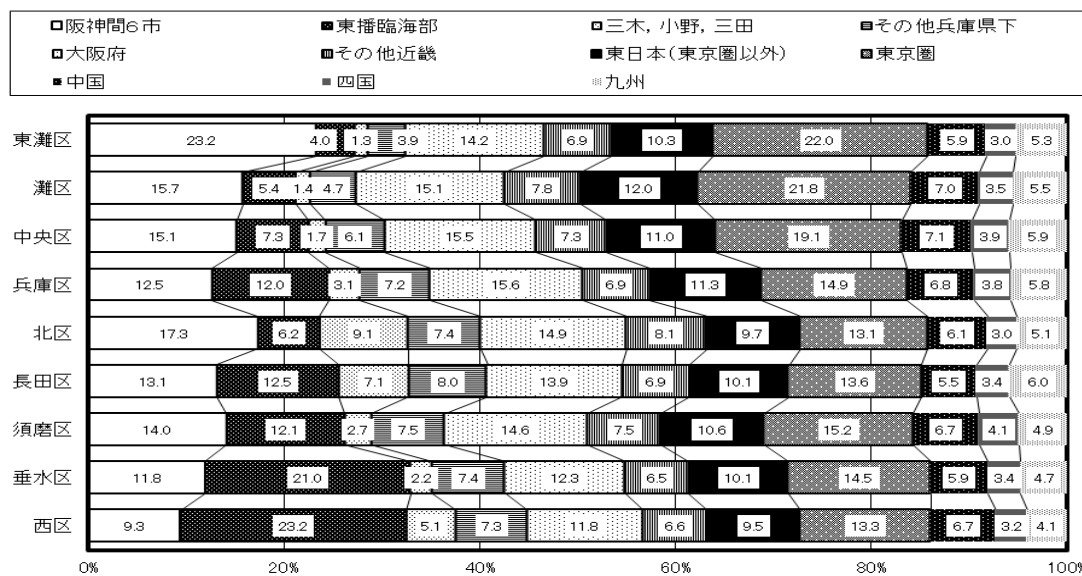
a) 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市

b) 明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町

c) 5年前の常住地「不詳」で、兵庫県に現住しているものを含む。

d) 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県

図15 区別 転出者の相手地域別割合(平成27年)



注) 国外への転出は除く。

#### 4. 区間移動の状況

##### 他区からの転入は垂水区が、他区への転出は須磨区が最も多い

市内他区からの転入をみると、垂水区が最も多く、須磨区、中央区、東灘区、灘区、西区、兵庫区、長田区、北区と続いている。市内他区への転出をみると、須磨区が最も多く、中央区、垂水区、西区、兵庫区、東灘区、灘区、北区、長田区と続いている。

移動状況をみると、転出入ともに隣接する区との移動が多い。

表12 区別 区間移動人口(平成27年)

区	他区からの転入									
	総数	東灘区から	灘区から	中央区から	兵庫区から	北区から	長田区から	須磨区から	垂水区から	西区から
東灘区	7,444	—	2,405	1,334	549	826	347	632	717	634
灘区	7,244	2,318	—	1,898	519	659	279	507	526	538
中央区	7,720	1,149	1,483	—	1,257	930	491	808	744	858
兵庫区	6,470	403	398	1,422	—	867	1,368	821	655	536
北区	5,011	641	567	733	685	—	522	622	558	683
長田区	5,667	269	230	566	1,438	500	—	1,628	579	457
須磨区	8,402	486	474	754	980	774	1,601	—	1,934	1,399
垂水区	9,001	728	599	873	770	732	690	2,129	—	2,480
西区	6,947	468	293	516	505	809	435	1,584	2,337	—

区	他区への転出									
	総数	東灘区へ	灘区へ	中央区へ	兵庫区へ	北区へ	長田区へ	須磨区へ	垂水区へ	西区へ
東灘区	6,462	—	2,318	1,149	403	641	269	486	728	468
灘区	6,449	2,405	—	1,483	398	567	230	474	599	293
中央区	8,096	1,334	1,898	—	1,422	733	566	754	873	516
兵庫区	6,703	549	519	1,257	—	685	1,438	980	770	505
北区	6,097	826	659	930	867	—	500	774	732	809
長田区	5,733	347	279	491	1,368	522	—	1,601	690	435
須磨区	8,731	632	507	808	821	622	1,628	—	2,129	1,584
垂水区	8,050	717	526	744	655	558	579	1,934	—	2,337
西区	7,585	634	538	858	536	683	457	1,399	2,480	—

図16 区別、区間転出入状況(平成27年)

